



桜中だより



坂戸市立桜中学校
校長 石田章浩
令和4年5月11日
【第2号】

校訓 「自主・澆刺」	学校教育目標 自ら学び心豊かでたくましい生徒の育成	生徒数 1年生 99名 2年生 110名 3年生 100名 全校 309名
-----------------------------	--	---

修学旅行を終えて

今年1月、まん延防止等重点措置が埼玉県、京都府に出されたため、延期となっていた3年生の修学旅行を4月14日（木）から16日（土）に実施しました。まん延防止等重点措置が解除されたとはいえ、コロナウィルス感染者数が埼玉県では3000人を超える中での出発でした。1日目、雨の心配がありました。少し暑いくらいの気温の中、奈良東大寺から班別行動が開始され、無事宿へ、の予定が16時過ぎ、京阪本線において人身事故が発生した影響で、生徒が乗車する予定の電車が運転見合わせとなるアクシデントが発生。しかし緊急の経路変更に対して、生徒達は落ち着いて対応できました。自ら正しい行動を臨機応変に選択した生徒もいました。知らない土地でのこのような行動は「あっぱれ」である。2日目も体調不良者もなく、京都市内を班別行動。順調に予定を消化。3日目も体調不良者はなく、予定通り消化して、無事帰宅となりました。3日間大きなトラブルもなく、生徒たちはルールとマナーを守り、体調不良者も出ずに帰ってきたことは何よりです。

12月には、2年生が修学旅行に行く予定。どうか2年生も「いい修学旅行だった」「素晴らしい学年だ」と言われるように準備をしっかりと、ルールを守って行きましょう。昨年の1月に「修学旅行は、延期します」と私が生徒に伝達した際に、「みんなと修学旅行に行くために、スーツを新調したのに残念だ」と話しました。そのスーツは未だに着ることはなく、クローゼットの中に……。私は今度こそ、クローゼットに眠っているものを起こして京都・奈良へ行きたい。

修学旅行を終えて（実行委員長）

2泊3日の修学旅行では、予定通りに行かなかった点がいくつかありました。

1つは1日目、奈良の東大寺への到着が遅れたことです。10分ほどの遅れでも、乗る電車を変えなければなりません。その結果、その後の予定も変更しなければなりません。徒歩での移動ならば、見学時間を短くするなどの工夫が必要です。そのような状況でも、多くの人が、限られた時間でより多くの史跡を見学し、より多くのことを学ぼうとしていました。

もう1つはその日、宿までの電車が人身事故の影響で、ホームに閉じ込められてしまったり、班のメンバーとはぐれてしまったりと、多くの問題が一度に起きてしまい、慌ててしまった人もいました。しかし、すぐに冷静さを取り戻し、本部に電話する人、人数確認をする人など、今自分が何をすべきかを考え、判断し、行動に移せていた人が多く、先生からの次の指示を落ち着いて待っていました。広がらないように、静かに待つようにと声を掛けている人もいて、先生の目の届かないところでも、公共の場にふさわしい行動を取っていました。一人ひとりの判断力、行動力が活かされ、さらに強まるきっかけになったと思います。

今回の修学旅行のスローガンに「培ってきた信頼関係や考えを生かし」という部分があります。自分のやらなければいけないことに集中することは、2年間共に過ごしてきた仲間だからこそ、お互いを信じ、予期せぬ出来事にも迅速に対応できたのだと思います。修学旅行を通じて、皆のことをより深く知り、協力することの大切を改めて学びました。

